

道徳の時間で活用する
～正直、誠実～

岩国市立高森小学校 岡本 直美

1 本場面におけるポイント

- 読み物資料として活用し、明るい心で楽しく生活する道徳的価値についての考えを更に深め、発展させる。自分の体験を想起し、自己を見つめ直す。
- 自分の意見を書いたり、発表したりする活動を通して友達と交流し、表現力や伝え合う力を育てる。
- 事後に「わたしたちの道徳」の日々の明るい気持ちを振り返るページを活用し、家庭と連携する。

2 授業の実際

1 主題名 素直でのびのびと 「資料名 お月さまとコロ」

2 ねらい

お月さまから言われ、草のつゆの玉にうつった自分の顔を見て、涙を流したコロの心情を考えることを通して、あやまちを素直に認めることで明るく伸び伸びと生活できる態度を育てる。

3 展開

(1) 導入

教師：コロはどんな性格でしょう。
 AB児：自分の思いどおりにならないと怒ったり文句を言う。いじわる。
 CD児：謝れない。素直でない。
 教師：こおろぎのコロとたった一人の友達のギロが出てくるね。たった一人の友達を怒らせて「もう、きみとはあそばない。」と言われたんだね。
 教師：二つの心が戦っていたんだね。ギロに謝りたい心と謝らなくてもいいんだという心と、どちらの方が強いと思う？（テロップ貼付）P50
 E児：また遊びたいので、謝りたいと思っているよ。
 F児：また仲良くなりたいたいので、私も謝りたいと思っていると思うよ。
 G児：謝らなくてもいい方というが強いのよ。はずかしいから。
 H児：ぼくもそう思う。命令されているような気がするから謝りたくないと思っているよ。
 I児：相手から謝れとコロは思っている。
 教師：みんなも自分から謝れない人がアンケートによると多かったですよ。命令されたようだから謝れない。人に言われたら嫌だという人もいました。なんだかコロに似ていますね。それだけ自分から謝るのは難しいんだね。今日のめあては「もっと素直になるためには・・・」です。（板書）

□ 指導上の留意点・支援・「わたしたちの道徳」活用のポイント等

1年生にとっては、長文なので、読み取りによる差がでないよう、事前に「わたしたちの道徳」1・2年生用P48～P50、4行までを読ませておくことよい。
 また、友達とけんかをしたときや自分にとって嫌なことを助言されたときの自分の行動をアンケートで振り返らせたり、主人公コロに共感させたり、憤りをもたせたりしておく。
 場面の様子をイメージしやすくするため、場面絵やペープサート、センテンスカードを利用し、短い時間で資料の内容が確認できる工夫を行った。



(2) 展開（主発問と児童の発言）

「わたしたちの道徳」P48

教師：お月さまに言われ、草のつゆの玉にうつした自分の顔を見て涙を流してたコロはどんなことを思ったのでしょうか（主発問）。
 全員：（ワークシートにコロの気持ちを書く。）
 J児：悪いことしたな。ギロに。

K児：あんなこと言わなきゃよかった。
 L児：遊びたい。もっと友達を増やしたいな。
 M児：謝ればよかった。素直に言えたらいいな。
 N児：どうして謝れないんだろう。これが本当のぼくなの。
 O児：まだチャンスがある。
 P児：これが本当のぼくではない。
 教師：笑顔になったとき、コロはどんなことを思っているだろう。
 Q児：気持ちがいいな。すぐに謝ろう。
 R児：すぐに謝ろう。
 教師：(資料の後半を、場面絵やキーセンテンスを黒板に貼付しながら読む。)
 教師：みんなが素直になるために、コロの行動で学んだところはどんなところですか。
 (児童の発言 略)(板書参照)



- 指導上の留意点・支援・「わたしたちの道徳」活用のポイント等
 ねらいに迫るテーマ発問を入れることで、コロの行動を通して、「自分たちも素直な心を持とう。」「自分から変わろう。」など自分の心を振り返りながら、道徳的価値について考えを深め、発展させる。資料で学習した道徳的価値と生活とを結び付けられるようにする。

(3) 終末

教師：これまで素直な気持ちで過ごせていましたか。これからどうしたらいいか、振り返ってみましょう。
 全員：(ワークシートに書く。)
 全員：(ペアで自分の振り返りを読み合う。相手の気持ちが伝わったら握手をする。)
 S児：これまでの私は、はずかしくて自分から謝れなかった。これからの私はちゃんと自分から謝ります。
 T児：自分から変わるよ。反省すると仲良くなれるよ。
 U児：人に言われるのが嫌だったけど、謝ればまた友達になれる。
 V児：素直になってみんなと遊べる人になりたいです。
 教師：素直パワーで行こうね。



ペアで相手の気持ちを読み合う児童

- 指導上の留意点・支援・「わたしたちの道徳」活用のポイント等
 事前アンケートで掘り起こしていた体験を振り返らせ、「今までの自分」「これからの自分」をワークシートに書かせ、実践への意欲を高めるようにする。
 ワークシートに書いたことをペアで読ませ、相手の気持ちに共感できたら、握手をする活動を仕組み、伝える力を育てる。

3 実践を振り返って



力も育てていきたい。

この時期の児童は、自分のしたいことや感情を優先し、友達の忠告を無視したり、それがもとになってトラブルになったりする傾向が見られる。また、自分が悪いと思っても自分の行為をごまかしたり不満を言ったりする姿も見受けられる。本資料は、お月さまと関わることで、変容するコロの姿が明快で、児童の体験を振り返らせるために効果的な資料であった。また、実践を継続していくためには、「わたしたちの道徳」P46のようにできたことを増やしていくページの活用も、低学年では特に効果的である。「わたしたちの道徳」を持ち帰らせ、家庭と連携して実践する